

知事との県民対話集会（宮田村）概要

- ・開催日時 令和5年6月19日（月） 午前10時30分から正午まで
- ・会場 宮田村民会館 第3～5研修室
- ・参加者 県民50名、小田切宮田町長、阿部知事、布山上伊那地域振興局長
- ・テーマ 阿部知事VS宮田女子 「みやだみらい会議」～女性が輝く地域を目指して～
- ・主な発言（要旨）

【参加者】

- ・働いている中で、Iターンの農家の方に話を聞くと、景色や地域の方々の人柄などが移住の決め手になったという人が多い。一方で、同級生（特に女性）は、上伊那地域外へ出た後に戻ってこない人が多い。都会の方が便利であることも理由であると思うし、また、地元のよさは若い世代にとっては気づきにくいということも理由ではないかを感じる。
- ・進路を考え始める高校時代に地元のよさを学ぶ「ふるさと教育」を行えば、地元での就職を選択肢に入れてもらえるのではないか。

【参加者】

- ・短大入学にあたり一度地元を離れたが、地元が好きで就職を機に戻ってきた。同級生は地元を離れたままの人が多。
- ・高校で地域活動や地元のよさを学ぶ機会があれば、地域のよさを知ることができるかもしれない。

【参加者】

- ・高校卒業後は東京方面への進学を希望している。就職で宮田村に戻る予定もない。村では出会う顔ぶれも限定的。都会に出て、いろいろな人の意見を聞いて視野を広げたいと考えている。
- ・交通のアクセスが悪く、村内でさえも車がないと買い物などが不便である。こうしたことも村に戻ってこない理由であると思う。

【知事】

- ・女性から選ばれる県にしていくことが重要であると考えている。子育てしやすい環境づくりや女性が働くことができる場を増やすこと、交通の便利性の向上など、限られた財源の中で何に注力するのが効果的かを皆さんと一緒に考えたいと思う。
- ・県内の若者に長野県を知ってもらえるよう、信州学を強化していきたい。また、高校において地域との交流の機会を増やしていく必要があると考えている。

【参加者】

- ・姉が地元で事務職の仕事を希望していたが、製造業や福祉の仕事が多く、県外で就職することになった。

【参加者】

- ・製造業が多く、女性が地元で働く上での選択肢が少ないと思う。
- ・当社では入社する人の6～7割が県外出身者であり、身内が近くにいないことから、地域で子育てを支える環境が重要であると感じている。
- ・理系人材の育成などについて産学官で取り組んでもらえればありがたいと思う。
- ・県外から就職してきた人も安全に住める環境であることが大事。防犯面が整備された賃貸住宅があるとよいと思う。
- ・企業の中では変わってきているが、地域社会では男性中心と感じる場面が多くある。

【知事】

- ・仕事の選択肢を広げることは重要であると思う。県でも理系人材の育成や起業支援に取り組んでいる。
- ・県では、企業の皆さんにも働きかけ、女性が働きやすい環境づくりに取り組んでいきたいと考えている。男性の育休取得率を上げ、男性の育児参加が社会の共通認識になるように改善していきたい。県でも幹部職員の女性登用を増やしているが、まだまだであり、加速化していきたいと考えている。
- ・地域社会については、ありたい社会は自分たちがつくるという意識で変えていってほしいと思うし、私も旗振り役として努力していきたい。

【参加者】

- ・ 都会は暮らしや仕事の選択肢が多く、企業の福利厚生も充実している。
- ・ 一度県外に出ると分かる地元のよさがある。ゆくゆくは地元に戻ってくるつもりと考えている人もいることから、新卒だけでなく第2新卒向けの就職支援を行ってみてはどうか。

【知事】

- ・ 大都会と長野県には、それぞれ強みと弱みがある。知事として、長野県の強みをどう活かすかを考えており、都会ではできない「信州やまほいく」などに取り組んできた。
- ・ 都会の働きやすさや暮らしやすさ、選択肢の多さを「仕方ない」と片付けてしまっはいけないと思うので、働きやすさや暮らしやすさなどの差をどのように埋めていくのか、代替していくのかを考えていかなければならない。
- ・ 第2新卒をターゲットにするのはよいアイデアなので、参考にさせていただきたい。

【参加者】

- ・ 重労働かつ専門性が求められる仕事でありながら、給食センターの職員の給与が低すぎると感じる。
- ・ 生活費の負担を軽減するため、母子家庭向けのシェアハウスや車をシェアできる仕組みがあるとよいと思う。

【知事】

- ・ 公務に準じる職員の処遇改善が必要であると思っている。
- ・ 何でも安ければよいという発想は、めぐりめぐって自分たちの給料も上がらないことにつながる。しっかり価格転嫁し、企業の生産性を上げる好循環を生み出すことで、給与が上がる仕組みにしていかなければならないと思う。
- ・ フードバンクなどの支援をしているスタッフが大変であり、そうした方々を応援し、きちんとした仕組みにしていけることが必要であると考えている。食料などが困っている人にきちんと届く仕組みをつくっていきたい。